

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：35503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520971

研究課題名(和文) 近世官撰絵図史の研究

研究課題名(英文) The study of Government Maps Historical Cartography of Early Modern Times.

研究代表者

磯永 和貴 (ISONAGA, KAZUKI)

東亜大学・人間科学部・准教授

研究者番号：10201922

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本近世の官撰絵図史の総合的把握を目的とした。また、日本の官撰絵図の特徴を明らかにするため朝鮮・中国の官撰絵図と比較した。朝鮮・中国の同時期の官撰絵図は地誌書の附図という特徴を持っている。また、中央政府の官撰絵図の作成の技術が地方へと伝播することは少なかった。これに対して日本の江戸幕府は、各藩に官撰絵図の作成を命じたため、藩も独自の絵図を多数作成した。日本の官撰絵図は、簡略に歩数などで距離を測ったり、樹木などを利用して角度求めたりする実測によったいわゆる「実測図」から和算の影響によって測量器具を使う精度の高い「測量図」へと独自の発達を遂げたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study was aimed at a comprehensive understanding of Government maps Historical cartography of modern times in Japan. It was compared with China Korea and China in order to clarify the characteristics of the Japanese government maps. China and Korea government maps of the same period, there was only role as a maps that came with the topography. In China and Korea, the local administrative organization was not able to prepare your own maps. In Japan, in the wake of a maps that the Tokugawa shogunate was made, it maps in local areas has been created. Map that has been created in local areas, has undergone its own development. Japan is unique math Sangaku was allowed to develop to the survey maps.

研究分野：地図史

キーワード：地図史 近世史 徳川幕府 朝鮮 中国 藩 絵図

1. 研究開始当初の背景

近世の官撰絵図は、江戸幕府の命令によって各藩が絵図を作成して献上することによって始まった。その最も代表する絵図が幕府撰国絵図であり、慶長を初回として寛永・正保・元禄・天保と5回にわたって作成された。それら各期の作成の経緯と特徴についての制度史的研究は、川村博忠著『幕府撰国絵図の研究』によってほぼ解明されている。

しかしながら、官撰絵図は江戸幕府が命じて各藩によって作成されたため、その作成技術が各藩で発達し、独自の藩による官撰絵図が作成されたが、その具体像は解明にいたっていない。また、官撰絵図は、東洋的な政治システムの中で、地方から中央への服従の証拠として献上され日本・中国・朝鮮においても作成された。しかし、日本・中国・韓国の官撰絵図を比較して、その特徴を明らかにした研究はない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の官撰絵図の特徴を総合的に明らかにすることが目的である。その目的は、次の2点である。

日本を代表する近世の官撰絵図といえば、江戸幕府が命じて各藩に作成させた国絵図である。しかし、実際の作成は各藩に委ねられた。したがって、各藩独自の作成技術によって作成したのである。その結果、絵図の作成の技術が発達し、その技術を持って各藩は藩内の様々な官撰絵図を作成した。本研究ではその作成技術の発達やどのように絵図を藩内で作成したかの具体的な実態を明らかにすることが目的である。

また、上述したように官撰絵図は東アジアにおいて作成されたが、中国・朝鮮・日本ではそれぞれにことなる特徴を持っているものと考えられるが、その具体的な比較は行われていない。そこで、日本の官撰絵図の特徴を明らかにすることを目的にして比較研究を行い、中国・韓国・日本の官撰絵図の特徴を明らかにすることも研究の目的においた。

3. 研究の方法

本研究の方法は、絵図のそのものを閲覧して調査し、具体的な比較を行うとともに各藩や日本・中国・朝鮮においてどのような絵図が作成され残存しているかの実態を網羅的に明らかにすることにある。

まず、日本においては、全国各地の藩政文書を所蔵機関の目録を整理して、各藩に伝来した絵図の大まかな把握を行った。また、朝鮮の地図については韓国のソウル大学奎章閣文庫の目録整理を行いつつ、各所蔵機関がどのような絵図を所蔵しているかを検討した。また、台湾の故宮博物館や台中の国史文献館をはじめとする各機関が絵図を所蔵しているかについてインターネットで検索して把握を行った。

次いで、具体的には、多数の絵図が残存し

ている熊本藩(熊本県立図書館・熊本大学付属図書館寄託永青文庫・熊本市立博物館・八代市立熊物館など)、萩藩(山口県文書館など)の所蔵機関に赴いて実地に絵図やその関連文書や測量器具などの具体的な調査を行った。また、香川県土庄町の慶長小豆島国絵図・正保小豆島絵図など(笠井家文書)の調査も行った。

韓国においては、ソウル大学奎章閣や延世大学、韓国国立民族博物館などの絵図類や地誌・測量器具・測量書などの実地調査を行った。

台湾においては台北の故宮博物館および台中の国史文献館を訪問し、具体的に絵図や近代地図の所蔵状況及び実見調査を行った。

以上のように、まずは絵図の各所蔵機関における所蔵状況を具体的に把握し、その歴史的な変遷を検討した。また、具体的に絵図を閲覧すると同時に、作成に使われた測量器具や測量書などにも注目した。また、絵図の紙や顔料、描写方法などにも注目した。さらには、各研究機関の研究者との議論を通じて多くの情報をえることも目的においた。

4. 研究成果

日本の官撰絵図を網羅的にかつ総合的に全国の所蔵機関の目録や絵図の閲覧調査などによって検討した結果、藩による絵図の作成プロセスに二つのタイプがあることが判明した。

その一つは、近世を通じて藩そのものが主体となって絵図を組織的に作成し続けた場合(代表例、萩藩の絵図方)と、当初は藩が作成主体であったが後に地方行政機関が絵図の作成担い、さらには地方の役人や農民が官撰絵図の作成に携わるまで広がりを見せた(代表例、熊本藩)があったことが判明した。

日本近世の官撰絵図の最も早い事例は、慶長国絵図である。この慶長国絵図は、精度が低く簡略に距離を測るなどによって作成されたと考えられてきた。今回の研究によって、慶長小豆島絵図の詳細調査をし、高精細画像の撮影を実施した結果、絵図に測点があり、それらを結んだ薄墨線があることが判明した。また、絵図中央に測点の起点となった山が位置していることが判った。慶長小豆島絵図は、距離と角度を測定しかなり精度の高い実測によって作成され、絵図が計画的にかつ高い技術力を持って作成されたことが解明された。本年度その成果が実り、本絵図は香川県指定の文化財となる。

また、熊本大学付属図書館寄託永青文庫の所蔵の正保国絵図の下図となった阿蘇郡絵図2枚を発見できた。その図には、測量に使われた線と数値が見られ、正保国絵図の段階ではすでに実測から測量へと技術が進展したことも新たな発見である。さらに、この下図を利用して作成された永青文庫の正保肥後国絵図の翻刻とその景観について検討を行った。これらは、阿蘇の世界遺産申請の基

礎的研究に利用されている。また、本研究の成果は、地元でのシンポジウムで広く一般に情報を提供し、本年度の世界遺産にむけた準備報告書として刊行される予定である。さらに、これまで継続的に調査を行ってきた熊本県立図書館では、行方知れずであった熊本では最古の国絵図と考えられる寛永肥後国絵図や多くの熊本に関連する絵図を発見できたのも大きな成果である。

このように日本の官撰絵図は、およその歩測による距離測定や樹木などによる角度の測定などによる簡略な実測図と、方位磁石などの測量器具を使った正確な精度を持つ測量図とに大別できる。また、測量図への発展は、日本独自の算学の影響が大きいことが判明した。熊本市博物館には、藩校時習館で測量の実習に使用されていた測量器具を発見できた。さらに、肥後藩の測量が藩校時習館での必修科目であり、算学家の甲斐家が教授を務めたことが明らかになった。この測量家である甲斐家から教授された徳野・池部・牛島の測量家が生まれ、藩校時習館で教授をつとめる一方で、地方の郷学の発展によって、それらの測量家が郷土や農民らに測量を伝授し、多くの測量家が生まれたことが判明した。また、藩校時習館では、藩士身分でなくとも郷土や農民いたるまで、身分に関係なく入学を許可した点も大きく影響を与えている。肥後藩における官撰絵図は、民間への広がりを見せた点が注目できる。

一方で、前述したように萩藩では、藩の絵図方によって絵図の作成が固定化しその技術の広がりがなく、ほぼ藩が絵図作成を続けており、民間への広がりが見られない。このような差異が生まれた背景には、藩における絵図についての政治的な意図が背景にあり、熊本藩のように実用的な絵図の性格が問われた場合と萩藩のように支配の観点から絵図が作成された場合があることが考えられる。

韓国と台湾における研究では、日本の官撰絵図との特徴が判明しつつある。故宮博物館では、同館の協力によって明・清朝時代の絵図の閲覧を実施できた。また、韓国においては朝鮮通信使関連の絵図についても収集を行い、日本の通信使関連の絵図との比較を行った。また、様々な所蔵機関の研究者と交流し、日本の近世絵図の紹介とともに中国・韓国での絵図研究の成果を多く収集できた。また、研究連携者の鳴海は、アメリカ議会図書館での日本関係の絵図の発見に努め、その成果についての情報を一提供を行った。

日本・朝鮮・中国ともに近世段階では、絵図・地図・絵・図といった概念は共通のものであり、それらの総括的な表現が絵図であることがほぼ明らかになってきた。しかし、中国・朝鮮の絵図は、地誌の付図として作成された場合が多いことと、日本のように中央集権を握った徳川幕府が体系的に絵図作成を行ったことは認められないことも解明され

つつある。

日本の官撰絵図の特徴は、中央政権である江戸幕府の強い政治的・軍事的意図から作成が始まった。また、藩もまたこのような中央集権の強力な政治的・軍事的意図を藩内の絵図に投影していった点が特徴であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

礒永和貴、近世の絵図、都府楼 43、2011、pp.2-14、査読無

吉田直人・早川泰弘・礒永和貴、大阪商業大学商業史博物館所蔵「河内国茨田郡藤田村文書」絵図の色彩材料調査結果、保存科学 51、pp211-225、査読無

[学会発表](計6件)

礒永和貴・鳴海邦匡、熊本県立図書館所蔵池辺長十郎・啓太作成の測量絵図、日本地理学会、2011年9月24日、大分大学

礒永和貴、近世絵図の魅力とその発達史、財団法人大宰府協会、2011年12月5日、太宰府市大宰府館

礒永和貴、江戸幕府撰肥後国絵図について、熊本大学拠点形成研究、2011年12月17日、熊本大学

礒永和貴、肥後藩測量家について 藩士測量家から地方測量家への展開、熊本史学会、2012年6月4日、熊本県立図書館

鳴海邦匡、アメリカ議会図書館に所蔵される日本関係地図、歴史地理学会、2014年5月18日、長崎外国語大学

礒永和貴、慶長小豆島絵図の作成過程、人文地理学会、2014年7月18日、大阪市立大学

[図書](計6件)

杉本史子・礒永和貴ほか編(鳴海邦匡執筆)、東京大学出版会、絵図学入門、2011、260

鳴海邦匡・上田長生編著、自費出版、宮内庁書陵部陵墓課所蔵 明治十二年御陵図、2011、130

荒尾市史編纂委員会編(礒永和貴・鳴海邦匡執筆)、荒尾市、荒尾市史 通史編、

2012、1598

吉村豊雄・春田直紀編、阿蘇カルデラの
地域社会と宗教、(礒永和貴・鳴海邦匡、
「国絵図にみる阿蘇のカルデラ景観」執
筆)清文堂、2013、420

平井松牛ほか編、近世測量絵図の GIS 分
析(礒永和貴、熊本藩測量家のネットワ
ーク、鳴海邦匡、鳥取城下全図の作成方法)、
古今書院、2014、295

礒永和貴・鳴海邦匡、阿蘇のカルデラ景
観、熊本大学、2014、160

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

礒永 和貴(ISONAGA, KAZUKI)
東亜大学・人間科学部・准教授
研究者番号：10201922

(2)研究分担者

鳴海 邦匡(MARUMI, KUNITADA)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：00420414